

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902363		
法人名	有限会社 スマイルプラン		
事業所名	グループホーム プランタン永山		
所在地	旭川市永山11条2丁目2番2号 (電話) 0166-24-5201		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年5月12日

【情報提供票より】 (平成22年 1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8人, 非常勤 11人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	1 名
年齢	平均 80.8 歳	最低 66 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック、東郷整形外科、豊岡内科整形
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

二つのユニットが東西にワンフロアで結ばれたホームは、利用者同士の交流や職員の見守りが容易で、雰囲気がとても良く、笑い声が飛交っています。職員の細やかな配慮による楽しい食事の光景が展開されており、職員間で利用者一人ひとりの生活のしやすさを追求する姿勢を、食事の時間を通して垣間見ることができます。ホームでは、雪解けを待ってホーム横にミニパークゴルフ場の設置予定ですが、リビングからも望め、利用者の楽しみと地域のお年寄りとの交流の場として大きな期待がもたれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価に対する取り組みは、一部の改善が見られますが、取り組みが行われていない項目もあり、管理者は職員と共に、評価の意義の理解を十分に理解する必要を思慮し、常に前向きな取り組みを期待します。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	管理者が作成した自己評価を職員に提示するのではなく、職員自ら、日頃のサービスを振り返る大切な機会と認識し、種々の気づきをユニットとして纏める、いわゆるボトムアップの自己評価が望まれます。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は3ヵ月毎に開催していますが、不定期な回数で開催に終わっています。また、地域の方々の出席や市の担当職員、地域包括支援センター職員の出席が無いなど、地域に根ざした会議の趣旨が活かされていません。ホームの状況報告に止まらず、自己評価や外部評価での課題取り組みを公表しながら経過報告をして、メンバーから意見を頂くなど、地域と共にホーム運営の向上に寄与する運営推進会議本来への取り組みが期待されます。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問頻度が高く、訪問時を利用した家族からの意見、要望、また苦情などを伺う様になっています。職員間ではどんな些細なことでも話し合える雰囲気づくりが大切との認識を強く持っています。些細な会話の中から意見や要望を把握するようメモ帳の充実を図るなど、ホームの運営に反映させる努力が続いています。 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の加入、また隣接の町内会長にはお世話になるなど、親しいお付き合いが続いていますが、ホームの行事を含めた地域住民の方々との交流は十分とはいえません。雪解けを待って開設予定のホーム横のミニパークゴルフ場は、利用者の楽しみに加え、地域のお年寄りとの交流の場として大きな期待が持たれています。これらの機会を有効に利用しながら、地域との交流を更に積極的に取り組まれるよう期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	外部評価で改善への取り組みの結果「地域に支えられその人らしい生活が送れる」「声なき声に耳を傾け、寄り添い、共に生きる」の新しい理念を作りあげ、これら理念の実践に日々努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、廊下、リビング、事務室などに運営理念が掲げられています。管理者と職員はカンファレンスなどの機会を捉え、運営理念の確認とサービスへの反映など、共有に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事にとけ込む意欲はありますが、町内会行事はあまり多くなく、隣接の町内会長とは、親しいお付き合いが続いています。また、ホームの設立記念行事を企画していますが、地域住民の方々との交流にまでは至っていません。	○	隣接の町内会長の大きな理解の下、ホームの横手に庭を改造したミニパークゴルフ場が、雪解けを待つて開設予定となっています。利用者と地域のお年寄りの温かな交流の機会となるよう期待され、これを契機に管理者と職員が一体となって、地域にとけ込む積極的な姿勢と行動を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成にあっては、これまで管理者が作成して職員に提示する繰り返しで、職員が自らのサービスを振り返りながら、気付きや改善への契機となっていません。また、評価で得た改善への取り組みも具体的な話し合いが十分ではありません。	○	ホームにおけるサービスの向上に加えて、職員のスキルアップによるサービスの質の向上を常に念頭に、評価の意義と理解、活用が大切であり、今、何故、評価による取り組みが必要かを管理者始め職員が熟知し、真摯な取り組みが行なわれるよう期待します。

旭川市 グループホーム プランタン永山

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヵ月毎に開催としていますが、不定期な開催が会議の記録に見られます。また、地域の方々の出席が少なく、市の職員、地域包括支援センターの職員出席がないなど、会議を活かしたサービスの向上には十分ではありません。	○	運営推進会議は、外部の方々の目を通して、ホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合うほか、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。2ヵ月毎の定例開催と共に地域の多くの方々を招聘しながら、自己評価や外部評価の結果を公表しながら、モニター役を担っていただくなど、今後のホーム運営の向上に大きな期待を致します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新を含む諸手続きへの指導助言をいただいています。今後開設を予定される小規模多機能型居宅介護事業所に関しても市の担当者との話し合いが続けられています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問頻度が比較的高く、訪問時に口頭で報告していますが、毎月発行される通信「日和」の発送に合わせて、担当職員が利用者の暮らしや食事の様子、認知症に関わる症状など、手書きの便りを同封して家族から喜ばれています。しかし、重要な預かり金の明細など、領収書を添えての金銭管理の報告が不十分です。	○	預かり金の出し入れなどの明細の報告は、家族との信頼関係を構築する上で重要なことを運営者及び管理者は十分認識され、利用者一人ひとりの金銭の出し入れの明細に領収書を添えるなど、金銭管理の報告の取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、家族からの意見や要望が話しやすい雰囲気作りを大切にしています。現在、「意見・苦情箱」の効果的な活用や家族からの会話メモを作るなど、ホームの運営に反映される作業が進められています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極端に少なく、ベテランの職員による利用者との馴染みの関係が出来上がり、安心の暮らしが継続されています。職員間では現場重視の徹底や家庭的な雰囲気大切にしている風潮が好まれて、働きやすい環境となっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画などは作られていませんが、経験や希望などによる外部研修の機会が確保されています。プランタングループでの研修も行なわれており、受講後はカンファレンスなどの機会に発表し、職員間で内容を共有できるようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列グループ間では、交流が盛んに行なわれており、サービスの質の向上が図られていますが、他の同業者とのつながりが欠ける傾向もあり、地域のネットワーク作りも必要と感じています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みに際しては、利用者や家族との面談、これまでの暮らしの現場などを調査しながら、ホームを見ていただくなど、ホーム生活を納得されて入居を頂くようにしています。職員は利用者のこれまでの暮らしを知りながら、徐々に慣れ親しめるよう配慮し、支援をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生経験豊かな利用者との会話を大切にしながら、喜怒哀楽を共に、支えあい学びあう気持ちを大切に暮らしの支援が継続されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者からの聞き取りで、思いや意向を把握するようにしていますが、家族からの情報や生活歴などを十分把握することで、表情から知るスキルを職員は得ています。また、困難な場合がありますが、その時は利用者本位で検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの担当者が、日々の見守りや記録をもとに意見を出し合い、介護支援専門員のアドバイスを得て、介護計画が作られています。ホームでは担当者だけでなく、職員の全てが利用者の見守りをしており、意見の交換により、利用者の最も適した介護計画を作ろうと努力しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは、3ヵ月毎に行なわれており、職員の気付きなどが集積されて利用者の介護計画が作られていますが、日々の記録では経過のみが記載され、計画に対する連動性が十分ではありません。また、状況に応じた見直しも随時行なわれていますが、家族などの意見や要望の反映が明確ではありません。更に利用者のアクティビティーも変化が予想されますが、状況に応じたアセスメントが十分ではありません。	○	介護に関わる日々の記録は、介護計画に基づいた記録が望ましく、計画の見直しには欠かせないものと思慮します。記録様式についても計画との連動性を有することが、職員にとっても有効性の強いものになると思われます。また、利用者の状況をより的確に計画に反映するため、アクティビティーのアセスメントは度々行ないながら、更に家族の意見や要望を取り入れた計画の見直しへの取り組みを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出は、できるだけ家族に対応していただくことを原則としていますが、利用者や家族の事情によっては、病院への送迎や買物など、ホームの車を使用して柔軟な対応をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、2箇所の医療機関に協力医となっただきながら、利用者の医療面を支援しています。医療連携体制として協力医と契約し、24時間の対応と看護師を確保して定期的な健康管理に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年からの課題である指針の作成及び職員と共有を図りながら家族への方針の説明ですが「看取りに関する指針」は作成されていますが、職員間での話し合いや共有の作業はされていません。また、家族への早い段階からの説明がされていないなど、医療連携体制が十分ではありません。	○	重度化や終末期に向けた方針を含む「看取りの方針」は作成されるなど、一部進捗が見られますが、その後の職員との協働体制や家族へ早い段階から説明をするなど、積極的な対応を早期に取り組まれるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	昨年の改善課題の面会簿は単記のカード式に改善されています。職員は利用者一人ひとりの人格を最大限尊重しながら、言葉かけや対応、個人情報の取り扱いに配慮しながら日々の支援が継続されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、利用者一人ひとりの状況に配慮した暮らしの支援が継続されています。職員は、利用者が生活しやすい環境となるよう会話などを通して把握しながら、その人らしい暮らしを支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下拵えや配膳、下膳と食器洗いなど、食事を通しての楽しみが展開しています。食事を作る職員の明るいかげ声、ユニット間がワンフロアで結ばれた食事の雰囲気为一体となって大きな笑顔が作り出されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に作られた浴室は並んで設置されていますが、大きさが違っており、十分な介護が必要な場合は大きめの浴室を使用するなど、状況に合わせた支援が行なわれています。週2回は入浴をしていただき、満足感と清潔を保つよう配慮されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の日々の状況を十分に把握しながら、居室やリビング、廊下の清掃を職員と共に行なうなど、日常の役割となっています。夏季にはホーム駐車場の傍にある菜園で、野菜など種まきから収穫までの作業が大きな楽しみとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の好天時には、利用者の状況を見ながら散歩をすることが恒常的となっています。近くのコンビニエンスストアへも買物を兼ねた散歩を楽しみに行なわれています。春からはホーム横のミニパークゴルフ場が出来上がり、利用者の外での楽しみが一段と増えることが期待されます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況やホーム前の交通量を考慮して、夏季を除いて日中も一時期、玄関の鍵を掛けていますが、鍵を掛けることで利用者にあたえる影響を理解しながら、見守りをして鍵を掛けない工夫、検討が現在行なわれています。		

旭川市 グループホーム プランタン永山

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の取り組み課題でした夜間想定を含めた訓練が行なわれている他、救急救命の訓練や勉強会、更には公民館などへの避難場所の確保が検討されています。地域住民の方々の協力体制は、まだ完全とは行かず、これからも働きかけを行なうなど、取り組みの強化が期待されます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、最低でも1,000ccを目標として日常的な記録をして管理を行ない、食事の栄養バランスには職員の知恵が十分に活かされて提供されています。利用者の状況を考慮して、刻み食や通常のいなり寿司のほかに、小さいいなり寿司を作りながら、利用者の美味しそうな表情を誘う工夫と配慮が見られます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二つのユニットがワンフロアで繋がっており、利用者の相互交流が絶え間なく行なわれています。各ユニットに大きなソファが設えられ、冬季間でも暖かな陽射しが入り、ゆったりとした居心地の良い時間を過ごせる共用空間となっています。職員は冬季間の湿度の低さによる乾燥防止対策をこまめにしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ベッドやテレビ、ソファ、仏壇や日用家具など、使い慣れたものが持ち込まれて、利用者の安心の空間が出来上がっています。		

※ は、重点項目。